



学校だより

令和7年度 7月号

令和7年6月30日発行

東京都立足立特別支援学校長

鈴木常義

〒121-0061 東京都足立区花畑 7-23-15

電話 03-3850-6066(代表)

「自己選択・自己決定に向けた進路指導」

進路指導部 熊坂哲兵

東京都の梅雨入りとほぼ同時に、現場実習が始まりました。例年実習生を苦しめる雨ですが、今年は雨よりも異常な暑さとの闘いとなっています。そんな中ではありますが、職能開発科、普通科ともに現場実習を頑張っています。学年ごとの進路の目標として、2年生は自分の得意なことや不得意なこと、好きなことや苦手なことと向き合い、1年かけて進路について「考える」ことを目標としています。3年生は、卒業後の生活をイメージし、進路先を「決める」ことを目標としています。それぞれの学年の目標に加え、個人ごとの目標を意識して、実りある実習へとしていきます。実習の集中期間は間もなく終了しますが、終業式間際まで実習が予定されていますので、保護者の皆様もどうぞ御支援のほどお願いいたします。

我々が生徒、保護者と進路先を決めるにあたって大切にしていることとして、「自己選択・自己決定」が挙げられます。これはどういうことかということ、学校生活及び現場実習を経て、生徒自身が希望する進路を選択し、決定していくことです。どうしても進路決定に向けては担任、進路、保護者それぞれの思いがあり、様々な考えが生じますが、最終的な決定は本人が選び、決めたことに向けてサポートしていきけるようにしていきたいと思っております。もちろんそこに至るまでには、成功と失敗を繰り返し、生徒、保護者と納得いくまで話し合いを繰り返していくことが必要になります。一人一人が目標とする進路に進めるよう、御協力のほどお願いいたします。

さて、そんな記事を執筆する中で、進路決定までのプロセスが印象的だった生徒の話を思い出したので、記したいと思えます。その生徒はとても明るい生徒で、どこに実習に行っても「楽しかった！」と振り返る活発な生徒でした。進路学習には前向きで、多くの実習を行ったのですが、どこの事業所が良かったのか「選ぶ」ことに苦労をしていました。そこで、その生徒の保護者は、今まで行った実習先の特徴（仕事内容、一緒に働く人、家からの通勤時間等）を全て3段階評価（良い、普通、苦手）で一覧にし、生徒と振り返りながら点数を付けられました。その結果、一番点数が高かった事業所に決定し、その生徒は今もその事業所で楽しく過ごしています。この選択において非常に良かった点として、実習に多数行くことで選択肢を広げ、生徒主体で決定できる方策を取られた保護者のやり方が非常にすてきだなと感じ、印象に残っています。

生徒の中には意思の表出が苦手な生徒もいます。自分で「選ぶ」ことが困難な場合であっても、実習時の活動の様子や反応などを細かに観察し、生徒が主体で進路先を「選ぶ」ことができるようにしていきたいですね。